



12月になり、朝夕の寒さが厳しくなってきました。日暮れも早くなり、午後5時半頃はもう暗くなっています。特に、夕方のお迎えについては、交通安全に十分気を付けて、時間にゆとりをもって運転してください。もし、お迎えが遅くなりそうな場合でも、安全第一を心掛けてください。慌ててしまって、事故を起こしたら大変ですからね。

## ○ クリスマスツリー点灯式に年長の子どもたちが参加しました。

先月29日(金)の夕方、年長の子どもたちが宮崎山形屋の「四季ふれいあいモール」で行われたクリスマスツリー点灯式に参加しました。このイベントには本園の年長の子どもたちが毎年参加しています。

子どもたちは午後5時半過ぎから代表の子どもたちの司会で歌と鍵盤ハーモニカの演奏を披露しました。初めに手話を交えながら「手をつなごう」を、次に「しあわせいろの花」を元気よく歌い、次に鍵盤ハーモニカで「世界中の子ども



たちが」を演奏しました。その後、サンタクロースが登場し、代表の子どもたちがお手紙を読んで渡してから、サンタクロースやみやぎき犬と一緒に代表2人がクリスマスツリーの点灯ボタンを押しました。それから、みやぎき犬と一緒に「パプリカ」を踊って点灯式は終了しました。終了後、みやぎき犬と一緒に記念写真を撮ったり、サンタクロースからプレゼントをもらったりしました。

会場はちょっと風があつて肌寒かったのですが、子どもたちは元気に発表してくれました。保護者の皆さんには、お忙しい時間帯に子どもたちの送迎、応援をありがとうございました。

今回で、本年度の子どもたちの園外でのイベント参加は終わりました。子どもたちは、慣れない環境の中で、よく発表してくれました。職員の指導もありましたが、子どもたちがよく練習をがんばったと思います。このような経験を積み重ねていくことで、子どもたちは多くのことを学び、成長していきます。

私たちも、子どもたちの健やかな成長のために、教育・保育の内容や方法を工夫していきます。

## ○ 子どもの健やかな成長のために

冬になり、朝ふとんから出るのが辛くなってきた子どももいるのではないのでしょうか。元気なだけで幼稚園に行きたくない、と言うことはありませんか。幼児といえども、友達との人間関係で悩むことはあると思います。幼児だからこそ「快・不快」を素直に表現します。「友達とけんかしたから行きたくない」とか「給食を食べたくないから行きたくない」とか。子どもたちは年長でもまだ5～6歳です。目の前のいやなことを避けたいと思うのは正直な気持ちだと思います。

子どものこれからの成長・人生を考えた場合、子どもの言い分をしっかりと聞いてあげることが大切ですが、これは「子どもの言いなりになる」とことは違います。子どもの性格や状況を一番理解しているのは親です。生まれてからこれまでの子どもの成長や親としての関わりを振り返りながら、これからどう関わればよいのかを考えてみませんか。親も今だけを考えると(例えば、子どもが外出先でだだをこねるから、とりあえず静かにさせるために子どもの言うことをきく)、将来親自身が困ることも出てきます。子

どもは自分の主張が通れば、いつでも思い通りになる、と思い込んでしまうことがあります。ですから、同様の状況になって親が違う対応をとると「どうして？」と考えてしまいます。幼児の思考と大人の思考は違うのです。

子育てをするにあたり、無理をしてでも子どもにさせなければならない場合があります。「快」だけでなく敢えて「不快」も経験させることで、子どもは自分の思い通りにならないことがあることを知り、困難な状況に遭遇した場合の対応策（我慢することなど）を学んでいきます。そのような関わりができるのは、生まれてからずっと子どもを育ててきた親です。言うのは簡単ですが、すごく難しいことです。完璧な子育てができた親は、そういないと思います。私も3人の子どもを育てましたが、振り返ると、果たして子どもの成長のためによかったのかな？と反省することが多いです。

子育ては、親育ちでもあると思います。親が子どもにどう関わればよいのか。こんな時、どう接し、どのような言葉掛けをすればよいのか。悩みは多いですね。「自分が自分の力だけでこの子をしっかりと育てなければならない」と考えると、きつくなります。そんな時は、子育ての先輩である祖父母や親戚、場合によっては近所の年配の人やお友達（ママ友）、職場の同僚、本園の職員などに相談すると、よい方法が見つかるかもしれません。親としても、子育ての経験は少ないので、周囲に相談することも必要だと思います。

もう40年以上前のことですが、後に映画化もされた小説「火垂るの墓」の著者として有名な野坂昭如さんが出ていたテレビのコマーシャルに「み～んな悩んで大きくなった～！」というフレーズがあったことを覚えています。当時はよく意味が分かりませんでした。今はよく分かります。みんな子育てを含め、生きていく中で、いろいろな悩みを抱えています。みんな一緒だ、と考えて、少し肩の力は抜きつつ、周囲の力も借りながら、子どもたちに自分で人生を切り開くことができる力を今から少しずつ身に付けさせていきましょう。



## ○ 「ながら運転」

すでにご承知でしょうが、今月1日から改正道路交通法が施行され、スマートフォンなどを使用しながら車を走行させる「ながら運転」についての罰則が厳しくなりました。「ちょっとくらいなら」「自分は大丈夫」など軽い気持ちで重大事故につながります。これまでもスマホを操作して車を運転したことが原因での死亡事故が多発しています。「覆水盆に返らず」という言葉もありますが、起きてしまったことは、起きるまえの状況に戻すことはできません。他人事ではなく、自分のこととして気を付けましょう。

ちなみに、今回の改正で運転中の携帯電話での通話や画面を注視する違反「携帯電話使用等(保持)」の点数が3点、通話や注視により交通の危険を生じさせる違反「携帯電話使用等(交通の危険)」は免許停止となる6点になり、反則金も「保持」は普通車で18,000円、「交通の危険」は刑事手続きの対象となります。

飲酒運転やお酒運転なども含め、危険な運転は絶対にしないよう、くれぐれもご注意ください。もし、事故を起こしてしまったら、自分も相手も不幸になってしまいます。毎日を笑顔で過ごしたいですね。

## ○ 百日ぜき

11月後半から県内で百日ぜきの罹患者が出ているようです。年齢別では小学生が約7割ですが、1歳未満の子どもも多いようです。6か月以下の乳児は重症化しやすいそうです。感染を防ぐためには予防接種が効果的だそうで、生後3か月から接種可能ということです。

百日ぜきは、患者のせきやくしゃみのしぶき、菌の付着した手で口や鼻を触ることで感染し、感染すると風邪のような症状から始まり、次第にせきが増え激しくなるそうです。インフルエンザも市内の小学校で流行し始めているようです。手洗いやマスク着用を心掛けましょう。